

まず、最初にお断りしなければなりません、私は日本原子力研究開発機構の研究者で、未来のエネルギーである核融合発電が専門であり、現在の原子力発電の技術者ではないのですが、一応、被曝等についての知識はありますので知っている範囲でお答えする、ということでご容赦くださいませ。

スリーマイルは、炉心溶融に始まり炉心崩壊、チェルノブイリは炉心暴走の後、爆発、どちらも炉心内部の放射性物質が外部に直接飛び散り、大事故となりました。

今回の事故は、内部の物質を閉じ込めるための手段を取り、現時点では終息に向かっているようですので、これらの事故とはレベルが全く異なります。

炉心溶融では？、と報道された福島第1原発一号機の事故は、スリーマイル事故に近い事象ですが、炉心崩壊を防ぐために、海水を入れて炉心を冷却、更にホウ酸注入して反応も止める手段に出ています。継続と監視が必要ですが、このまま終息して、これ以上の拡大はないと予想されます。

放射性物質を内部で閉じ込めた、という時点で、結果的に事故のレベルは全く違うことになります。

内部の蒸気を放出した際に、一部放射性物質が飛散、というニュースもありますが、やはり、炉心崩壊とは全く異なります。

被曝については、現場周辺の環境モニタリング値は非常に低い（飛行機の移動の方が高いくらいです）ので問題ないですが、問題は放射性物質が飛散した場合です。一部被曝のニュースもありますが、周辺部では殆ど問題ないレベルだと思います。

今後、問題になるほど放射性物質が出た場合、放射性物質はその日の風向きにより落ちてくる場所が決まりますので、やはりニュースをよく聞いて、それに従うしかないと考えます。一番怖いのは放射性物質を体内に吸い込んだ場合です。良い対策は、花粉症対策です。めがねとマスクをして、帽子を被り、家に入るときは花粉を払って、という感じで過ごせば、体内に放射性物質が入るのを防げると考えます。飛散するような放射性物質は細かい金属の粒ですので、細かい花粉のようなもの、というイメージで払えばいいと思います。

今の時点では、特に怖がる必要はないと考えています。